

すさきE-CLIF教育※

※E-CLIF：Energy to Create and Live an Innovative Future（革新的な未来を創造し、生き抜く力）

課題

先行きが不透明で、予測困難な時代の到来

少子化・高齢化

超スマート社会
(Society5.0)

グローバル化

多様性社会

+

従来型教育の限界

テクノロジーで
代替困難な
分野の高度化

指導内容の
多様化・複雑化

児童生徒の
特性の多様化

目的

社会構造が変化し、予測困難な未来を力強く生き抜くために必要な力（＝「生きる力」）を持った子どもを育てる教育の提供

教育の視点

連続した学び

幼少期における学びの開始と、継続的な学びの反復を重視し、保育園→小学校→中学校の連続性を意識

実体験を通じた学び

社会の現場や、課題発見から課題解決までの流れを実際に体験し、スキルや当事者意識を育てる学びを提供

実施する教育

① 地域学習
防災教育
安全教育 etc.

③ キャリア教育
人権教育
読書活動
外国語教育 etc.

4つの「生きる力」

① 地域とともに「生きる力」

「ふるさと須崎」を愛し、地域の未来を担う力の育成

② 予測困難な未来を「生きる力」

社会変革に柔軟に対応し、新しいことにチャレンジする力・意欲の育成

③ 多様な他者とともに「生きる力」

規範意識・人権意識・自立心・自尊感情の育成

④ 非認知能力
(忍耐力・自制心・協調性・計画性・好奇心 etc.) ※

② ICT教育
テクノロジー教育
PBL教育 etc.

PBL：プロジェクトベースの課題解決型学習

④ 幼児期・学童期における遊び・アート etc.

場面最適な学び

個別最適な学び

一律に「教える」、「同じことをさせる」授業から、子どもの習熟度や特性、関心に応じた学習機会を提供

協働的な学び

対話を通じ、他者を尊重し、他者と協力しながら目的に向かっていく学習機会を提供

教員の役割

- ・ 教える立場（「指導」）から子どもの主体的な学びを支える立場（「伴走」）へ
- ・ 子どもに学びを提供するのではなく、学びの「きっかけ」を与え、「自ら学ぶ」環境を提供
- ・ 学習進度の早い子の学びは止めず、困難を抱える子どもの学びを支援

※ 出典：井岡 由実（花まる学習会）「こころと頭を同時に伸ばすAI時代の子育て」

